

霧島山

概 況

御鉢火口の噴気活動は、監視カメラで時折、御鉢火口縁上に噴気が上がっているのを観測するなど、やや活発な状態が続いています。

噴気活動の状況

御鉢火口内の噴気活動は、やや活発な状態が続いています。監視カメラによる観測では、御鉢火口縁上から高さ 50～300m の噴気が時折上がっているのが観測されました。噴気高度の最高は、6 日の火口縁上 300m でした（図 3）。

新燃岳火口周辺では、噴気活動に大きな変化は認められませんでした。

地震・微動活動の状況

霧島山の地震回数（気象庁観測点 A 点）は、60 回（9 月：168 回）で、先月より少なくなりました（図 1 の ）。

震源が求まった地震は 49 回でした。中旬には、新燃岳の西から北西約 7 km 付近に広く分布しました。24 日頃からは新燃岳の南南西約 3 km（湯之野付近）の深さ 1～3 km に求まる地震がやや増えました。また御鉢付近のごく浅いところにも分布しました（図 4）。

新燃岳

新燃岳付近を震源とする火山性地震は少ない状態で経過し、10 月の地震回数は 2 回（9 月：10 回）でした（図 2）。

新燃岳付近を震源とする火山性微動は発生しませんでした。

御鉢

御鉢付近を震源とする火山性地震は、1 日あたり 0～3 回と少ない状態で経過し、10 月の月回数は 16 回（9 月：36 回）でした（図 1 の ）。

御鉢付近を震源とする火山性微動は発生しませんでした。

地殻変動の状況

GPS 連続観測（気象研究所の観測点を含む）では、各観測点間の基線長には、火山活動に対応する変化はありませんでした（図 6）。

また、気象研究所の 3 点の傾斜計には、火山活動に対応する変化は観測されませんでした。

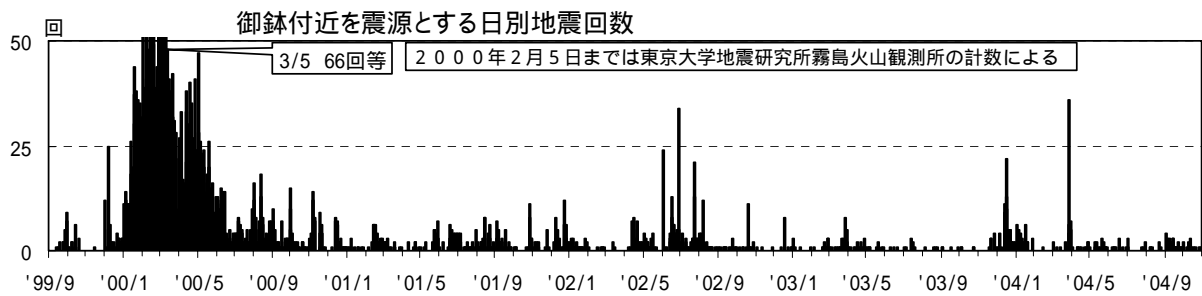
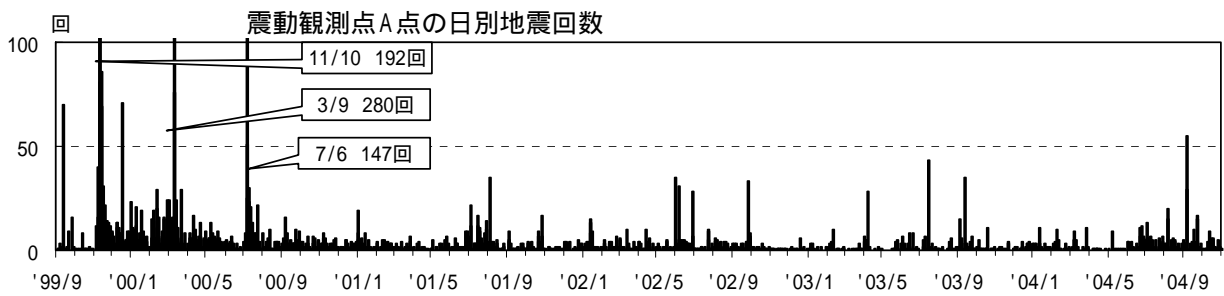


図 1 火山活動経過図(1999 年 9 月～2004 年 10 月)

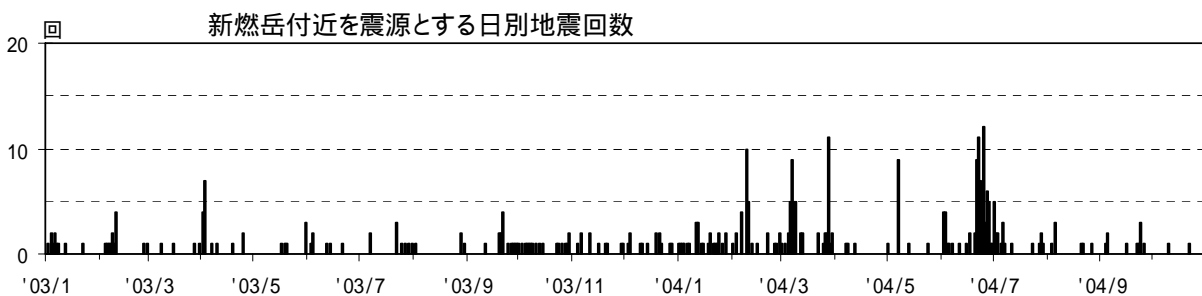


図 2 火山活動経過図（2003 年 1 月～2004 年 10 月）

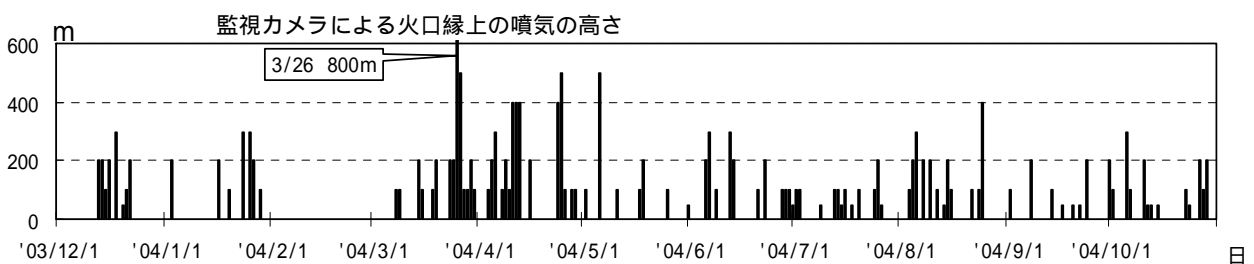


図 3 御鉢火口の噴気の最高高度(2003 年 12 月～2004 年 10 月)

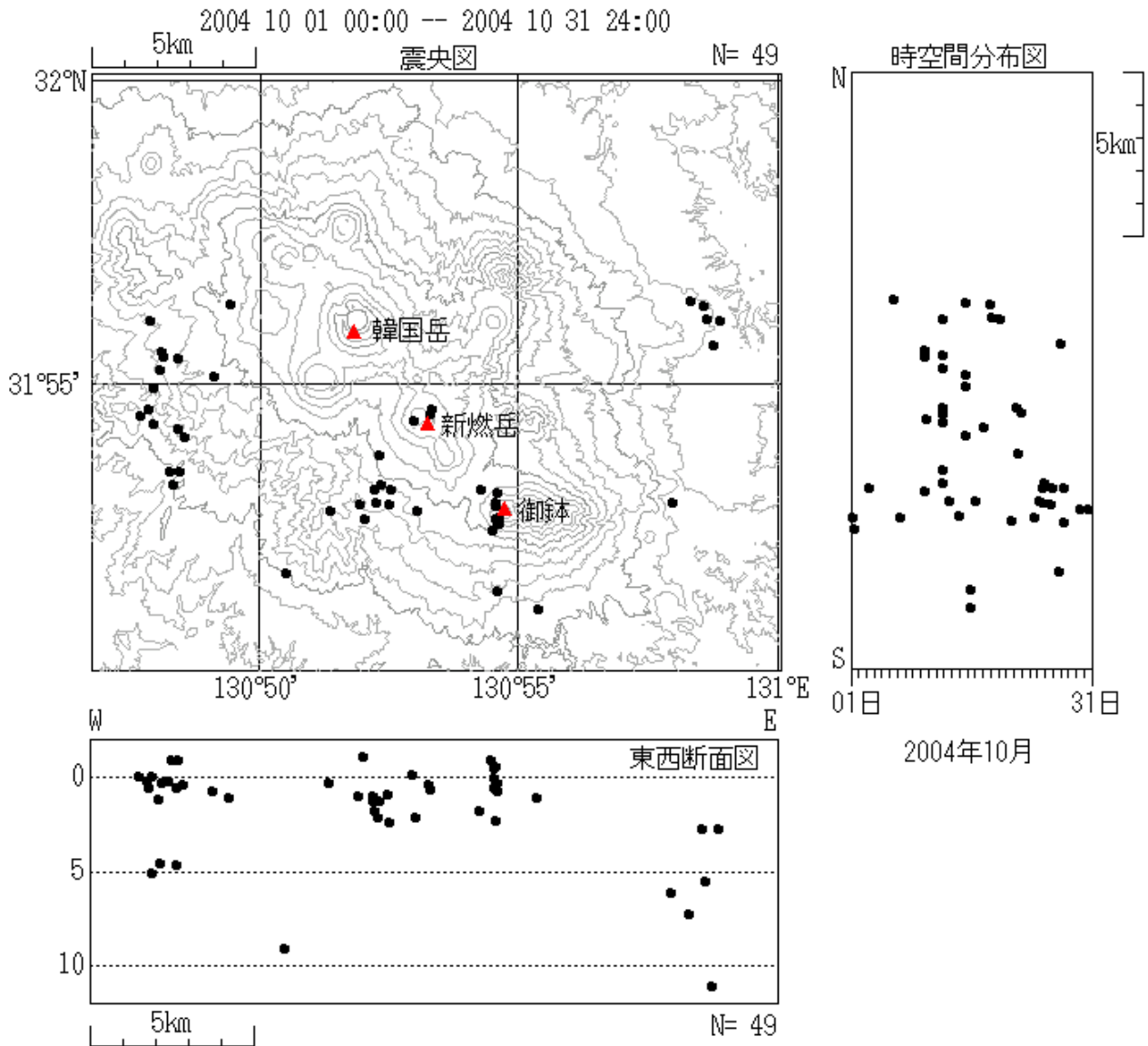


図4 震央分布図（上）断面図（下）時空間分布図（右）
 （2004年10月1日～10月31日）

本資料は、防災科学技術研究所、東京大学、気象庁のデータを用いて作成している。

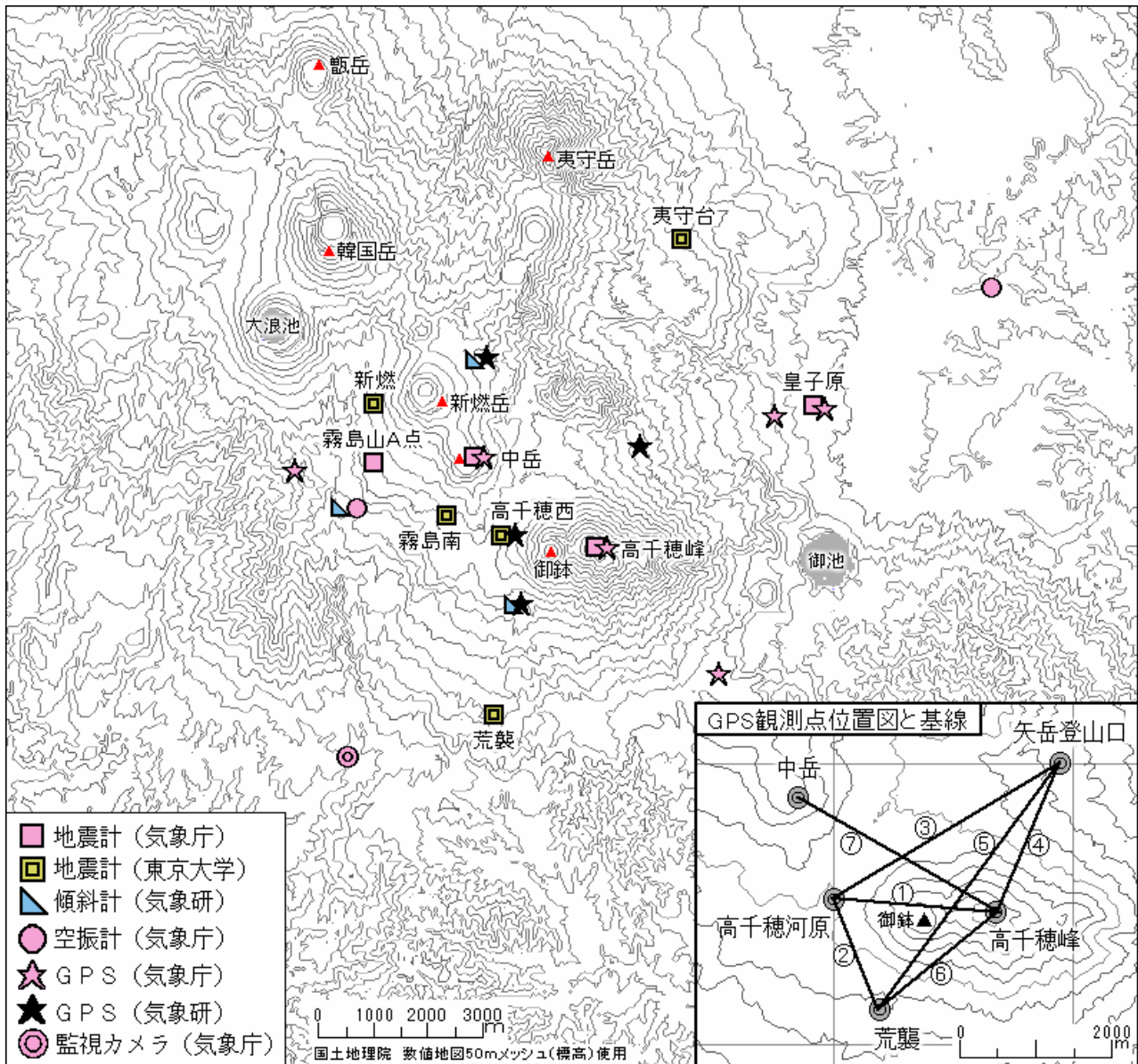


図5 霧島山広域観測点位置図(気象庁監視)

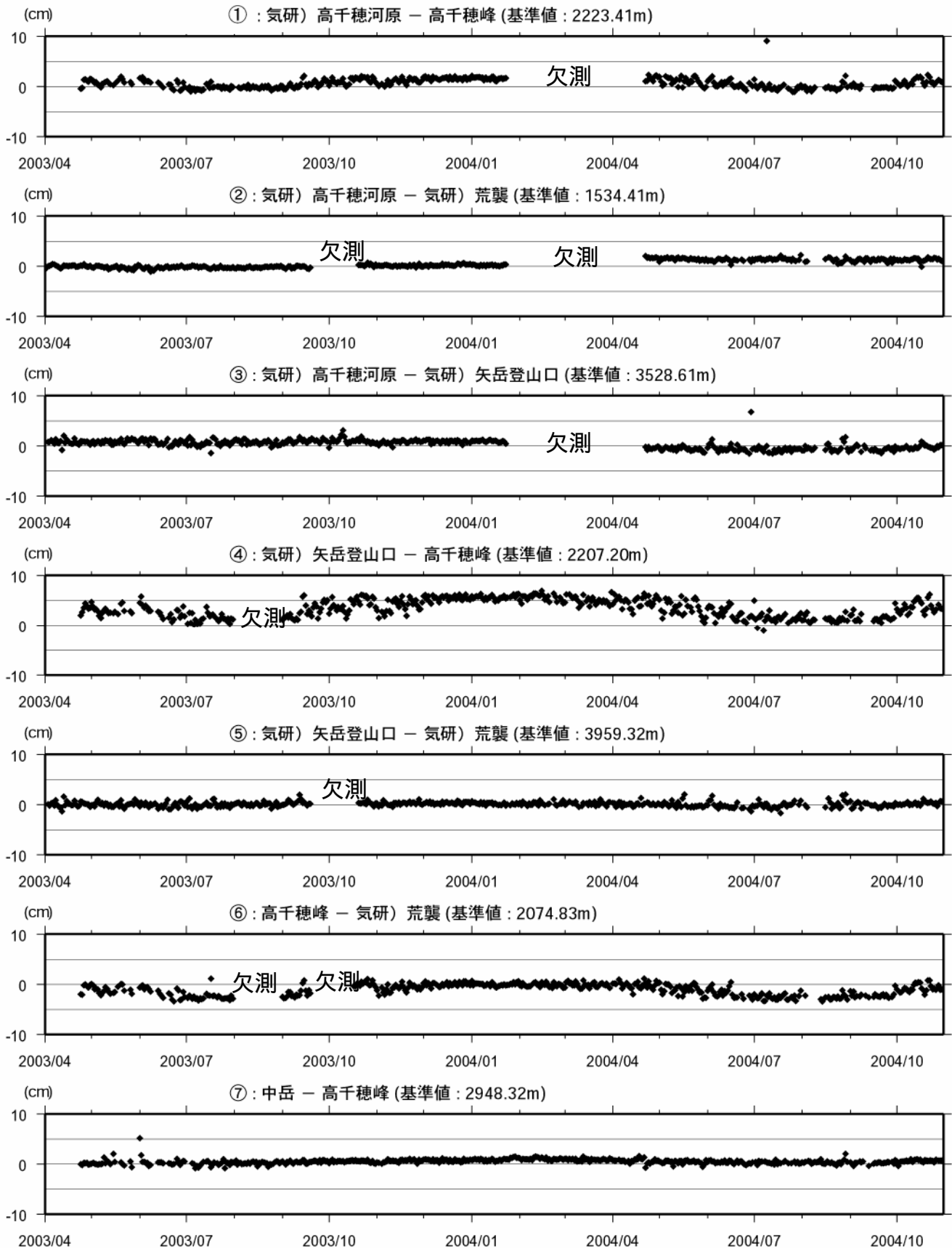


図6 GPSによる基線長変化(2003年4月1日~2004年10月31日)
 ・気研)高千穂河原観測点は2004年1月23日から4月22日まで欠測